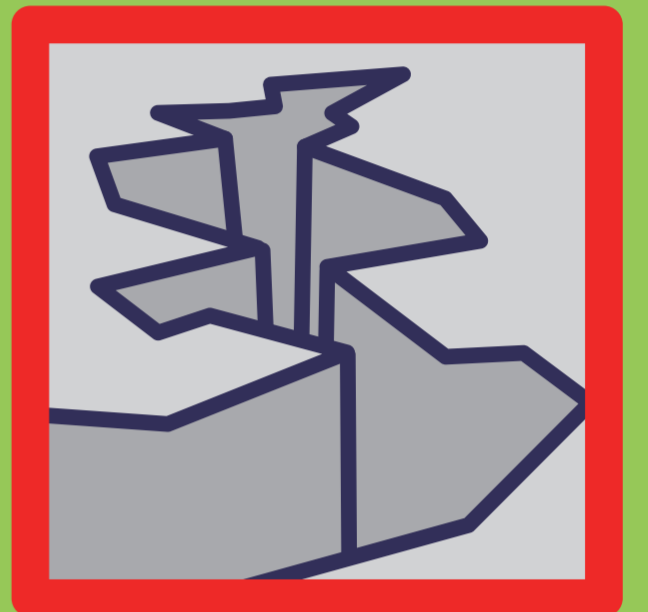


ジオハザードに 対処できる人材の育成 防災国際ネットワーク構築に向けた 国内連携のあり方

.....ワークショップ.....

活動的な沈み込み帯に位置する国々では活発な地球活動に関わる災害が多発する。地震・津波、火山活動、異常気象に伴う地滑りなどである。沈み込み帯に位置する国々は、開発途上国が多く、これらの地質災害にかかる備えが不十分である。災害先進国である、日本が、今まで培って来たノウハウを提供し、ともに減災に向けた取り組みをすべきである。

本ワークショップでは、地震、津波、地すべり、火山災害等の地質災害を被る可能性が高い国々に対して行っている国際交流の現状を把握し、今後、どのようにして二国間交流あるいは多国間交流を構築してノウハウの移転を行うか、その問題点と仕組みづくりを議論する。とくに、国内体制の整備について関係者が一堂に会して意見交換を行い、国内連携体制の構築を目指す。



開 場 (13:15)

(13:30 ~ 13:40)

- ・北里 洋 (日本学術会議連携会員、IUGS 分科会委員長、
国立研究開発法人海洋研究開発機構上席研究員)
趣旨説明とワークショップのゴール

第一部 (13:40 ~ 15:45)

Geohazard 人材育成の現状紹介

司会 北里 洋 (前出)

- ・中田節也 (連携会員, 東京大学地震研究所教授) インドネシアとの交流
- ・益田晴恵 (連携会員, 大阪市立大学大学院理学研究科教授) バングラディッシュとの交流
- ・在田一則 (北海道大学名誉教授) ネパールとの交流
- ・後藤和久 (東北大学災害科学国際研究所准教授) スリランカとの交流

休 憩 (15:45 ~ 16:00)

第二部 (16:00 ~ 18:00) (パネル討論)

Geohazard 人材育成に向けた国内連携のありかたと国際ネットワークへの将来構想

モデレーター 小川勇二郎 (特任連携会員, IUGS 理事、筑波大学名誉教授)
国際ネットワーク構想の概要説明

- パネリスト
- ・今村文彦 (東北大学災害科学国際研究所所長)
 - ・金田義行 (名古屋大学特任教授)
 - ・久田健一郎 (筑波大学大学院教授)
 - ・佃 栄吉 (連携会員, 産総研理事)
 - ・坂口有人 (山口大学理学部教授)
 - ・松田泰治 (熊本大学減災センター長)

閉会の挨拶

**場所：国立大学法人東京海洋大学 大講義室
(越中島キャンパス、第4実験棟5階)**

日時：平成 27 年 11 月 20 日 (金) 13:30 ~ 18:00



主催：日本学術会議 (地球惑星科学委員会 IUGS 分科会)、国立研究開発法人産業技術総合研究所、東北大学災害科学国際研究所

後援：日本地球惑星科学連合、日本地質学会、東京地学協会、日本第四紀学会、日本応用地質学会、日本地形学連合、日本火山学会

連絡先：北里 kitazatoh@jamstec.go.jp